

仁杉さんは、1915年生まれで、今年には、101歳になる予定でした。今年の年賀状には、今度の5月7日で101歳になりますと書いてあり、暮れにお亡くなりになったことを私が知ったのは正月休みが終わってからでした。仁杉さんは、国鉄総裁や鉄道建設公団総裁、西武鉄道社長など素晴らしい経歴の鉄道の先輩ですが、プレストレストコンクリート（以下PC）技術の先輩で、本工学会の前身のPC技術協会の第9代会長でもあります。1938年に東京帝国大学の土木工学科を卒業後、鉄道省に入省し、最初の配属は大臣官房研究所でした。1939年の1月には鉄道連隊に召集され、4年間の兵役を務めています。2年半は津田沼の鉄道第2連隊に、その後の1年半は満州のハルビンに行っています。1943年2月に召集解除になり、鉄道技術研究所の構造物設計部門に配属になります。同時にコンクリート研究室の研究員を兼務します。研究所の顧問をされていた吉田徳次郎先生が、週に1度見えており、その教えを直接受けました。この時に吉田先生からの課題の1つがPCでした。戦中で、材料の入手に苦労しながらも、PC桁を製作しては実験をしていました。そのうち戦局が厳しくなり、一時研究もできなくなりましたが、1945年に終戦を迎え、引き続き吉田先生の指導を受けながらPCについて本格的な研究をしています。その成果は、土木学会の論文集（1950年11月）にまとめられています。また戦後初のコンクリート標準示方書の編集に関しては、その幹事を務めて1950年に出版しています。この売れ行きが良かったことで土木学会は財政の危機を乗り切っています。1949年の10月まで研究所に勤務しています。

1953年に国鉄大阪工事事務所の次長になりました。その少し前に、PCの調査でヨーロッパに留学してきたこともあり、大雨によって流失した信楽線の第1大戸川橋梁をスパン30mのPC橋にしようとして計画しました。それまでのスパンは10m程度だったものを一挙に30mに伸ばしたものです。この施工記録も土木学会論文集第27号にまとめられています。この論文をもとに、土木学会のPCの施工基準が作られています。建設後すでに62年経過していますが、スランプ2cmで造られたこのPC橋は、中性化深さもほぼゼロで、今でも非常に健全であることが報告されています。

その後、東海道新幹線の建設では、名古屋幹線工事局の局長を務めています。この時に、仁杉さんが、耐久性やコ

スト面でPCが優れていると推奨したことから、東海道新幹線ではPC橋が本格的に大量に使われています。その後の新幹線建設では、騒音対策の面からも優れていることから、長大橋はPC橋が中心となっています。

仁杉さんは、わが国でのPCの最初の研究者でもあり、実用化にむすびつけ、施工の基準のもとを作り、また広くPCを広めることに貢献してきました。

この後、経営者としての経歴が多くなりしばらくPCから離れていましたが、1996年に極東鋼弦コンクリート振興株式会社の取締役となり再び、PCにかかわるようになりました。

私は、国鉄、JR東日本(株)、JR東日本コンサルタンツ(株)にて、PC技術にかかわり続けていました。それまでも鉄道関係の集まりでは仁杉さんにお会いしていましたが、PCに関して仁杉さんと親しく話をさせていただくようになったのは、この極東鋼弦コンクリートに仁杉さんが行かれてからです。横浜国大名誉教授の池田先生や、道路分野や、建設会社などのPCに詳しい方々数人と定期的に仁杉さんを囲んでPCの将来などについての意見を交換しました。私は鉄道の分野で、PC関係の人ということで加えていただいたようですが、この会では私が最年少であり、仁杉さんの飽くなき知識力に、つねに刺激を受けていました。PCの将来性や、その折々の技術的な問題点、海外事情など幅広い分野での話題が交わされました。

2年前の99歳には、白寿のお祝いということで、仁杉さんから多くの方と一緒に招待され、その1年後には、招待された方々を中心に100歳のお祝いの会が催されました。しっかりと足取りで、挨拶もしっかりとなされて、まだまだお元気だと感じていました。各種の会では、つねに挨拶と乾杯の音頭を元気にとられ、今年の新年の会では、その声が聞けなかったのは、非常にさみしい思いでした。若いとき研究に携わり、実用化と普及に関わったPCには、最後まで変わらない情熱を注いでおりました。若くない私も、仁杉さんの前では若者でして、いつまでも学ぶ気持ちと情熱を失ってはいけないと気持ちを新たに致したものです。プレストレストコンクリート工学会の皆様とともに、PC技術の発展を願い、わが国のPCの先駆者の冥福をお祈りしたいと思います。

【2016年1月27日受付】

\* Tadayoshi ISHIBASHI：東日本旅客鉄道(株)顧問  
ジェイアール東日本コンサルタンツ(株)取締役会長